

第3回市民自治推進委員会議事概要

1 日 時 令和7年11月14日（金） 10：00～11：55

2 会 場 鳥取市役所駅本庁舎 3階 第1会議室

3 出席者

- (1) 委 員 稲垣委員、甲田委員、清水委員、城野委員、鈴木委員、椿委員
中川委員、西原委員（50音順）8名出席
- (2) 鳥取市 協働推進課：小森課長、西谷主事

4 議 事

- (1) 審査事項
 - ① 市民活動表彰の審査について
(鳥取市情報公開条例第7条第6号により非公開)
- (2) 協議事項
 - ① 参画と協働のまちづくりフォーラムについて
(委員長)
それでは準備が整ったので協議事項①「参画と協働のまちづくりフォーラムについて」事務局から説明をお願いする。

(事務局) 【資料2】説明

(委員長)

ここからはKJ法を用いてグループ討議を行う。相手の意見を尊重して否定しないことや質よりも量を意識してできる限り多くのアイデアが出せると良いと思う。それでは、各グループでの討議をお願いする。

【グループ討議】

(事務局)

さまざまな意見が出ていると思うが、各グループで出た意見を1グループあたり2分間程度で共有していただきたい。

(委員長)

私たちのグループでは、SDGsに関わるテーマのうち、鳥取市が抱える課題と重なるようなものが良いという意見があった。また、AIの活用などの若者文化を取り入れたまちづくりの支援や、昨年度のフォーラムでテーマにした防災についても意見も挙がった。あとは、現在、一番の課題となっている地域の担い手育成のような部分からテーマを考えるのも良いと思う。町内会加入世帯が、地域活動に必要なマンパワーや資金を負担しているが、町内会未加入世帯が関わらない、または関わりづらいシステムとなっている。誰もが良い地域に住みたいと思っているのだから、これらを改善して無理や負担感なく、関わる時に地域活動に関われるしくみづくりができれば良いという意見もあった。

(委員)

私たちのグループでは、「人」に関する課題に焦点を当てて話し合った。「学生を含む若者世代を巻き込むにはどのようにすれば良いか」などをテーマにしても良いのではないかと思っている。ただ、このテーマにした場合、フォーラムに来ていただけそうな皆さんは一定数あるかもしれないが、全く興味がなく自分は関係ないと思っている方が圧倒的に多い状況なので、そのような皆さんに来場していただくのは難しいと思われる。テーマを「人」や「次世代」にするのであれば、現在活動している皆さんに仲間を増やしていくにはどうすれば良いかという観点など、呼びかけを上手にしなければフォーラムにお客さんが来ない可能性があることも話し合った。

テーマは「次世代の担い手をどうするか」、メッセージは「自分たちの暮らしを良くするために、自分たちができることは何かを考えよう」ということだったと思う。

(委員長)

どのような皆さんをフォーラムに呼び込むかは、テーマやフォーラムの開催日も関わってくる。例えば、若者世代や日中に働いている世代を呼び込みたいのであれば土日に開催した方が良い。開催日について事務局はどのように考えているのか。

(事務局)

日程については、当日の集客も考慮したいため、これまでの開催実績をふまえつつ、仕事が休みとなる方が比較的多い土曜日や日曜日を候補日として検討したい。

(委員長)

どのテーマも大事なことだと思う。普段の地区公民館では60代や70代の方の姿が多く見え、若者世代が地域活動に関わっていないように思う。ただ、納涼祭を開催すれば多くの若者世代の参加が見られる。どの年代に対して呼びかけるフォーラムにするかが一番大事な視点だと思う。

市では自治会活動の活性化に向けて動いており、実態把握のためのアンケートを実施しており、その結果をふまえた政策を打ち出していくことになると思う。昨年度の市民自治推進委員会では、鳥取市自治基本条例において「コミュニティ」を自治会やまちづくり協議会などの用語を用いてわかりやすく定義するための議論を行った。その内容をふまえて条例の一部改正が行われたが、この流れで様々な取組が進められているのではないかと思う。

鳥取市自治連合会では、数年前から町内会加入世帯数が減ってきてている状況を受けて、加入を後押しする条例の制定を求めてきたが、特定の任意団体への加入を促す内容を条例に定めることに懸念があることから実現していない。ただ、地域は切羽詰まった状態になってきているので、市の施策に併せて地域においても協働のまちづくりを進めていかなければならないことをアピールするフォーラムにできればベストだと思う。

より多くの皆さんを呼び込むには、皆さんに参考になったと思ってもらえるような身近なテーマが聞きやすいとも思うが、みなさんのご意見をお聞かせいただきたい。

(委 員)

町内会の役員不足について、役員の負担があまりにも大きく、省略できる部分がないだろうかという意見が挙がっている。当然、行政も考えていると思うが、地区や町内会に様々な負担がかかっている。私の地区では、町内会の回覧物の省略や、役職が多くなるという意見が出ている。役職については、人権や体育、福祉などの団体の委員に各町内会からそれぞれ2人ずつ選出するようにしているが、「30世帯ほどしかなく、2年に1回は役職が回ってくるから何とかしてほしい。」という意見も挙がっている。このような意見が出るのはご高齢の方が多くお住いの町内会が多いが、役職が十数もあれば2年に1度は役職が回ってくることになる。そこで私は、「必要と思われない役は各団体長と話をして人数を減らしてもらうので嘆くことはない」と申し上げたことがある。言い出せば、いろいろな課題があると思う。

地区公民館については、人口が200世帯から300世帯の地区にも地区公民館が1つ設置され、4名の職員が配置されている。2,000世帯以上の地区も同様の体制で、地区体育館が隣接していればさらに利用者が多くなるが、この場合の体制も同様であり不公平感を感じる。学校の再編については以前から議論されているが、小中一貫校という形態で進むぐらいで小中学校同士の統合はほとんど進んでいないと思う。地区公民館も似たような状況にあるが、地域感情からすると地区公民館の整理や縮小は行政の方から話題に挙げるのは難しいと思っており、自治連合会や地区から話題に挙げなければならないと思っている。

(委 員)

今の鳥取市は本当に大変だというのが市外からの見え方である。それぞれ 61 地区で特性が異なっており、全ての地区に同じ網掛けをすればうまくいくようなことが減っている。鹿野地区や小鶴河地区からこれから地域づくりを考えたいという相談を受けて関わっているが、今が一番難しい時期だと思っている。それぞれの地域で良いしくみや年間事業の組み立て方があるのではないかと思う。

確かに人材育成はとても大切だと思うが、育成した人材がその能力をいかんなく発揮できるしくみがどのようなものかという部分にも目を向ける必要があると思っている。せっかく育成した人材を、昭和の仕組みに打ち込んだとしても、むしろ困ってしまうことにもなりかねないので、現在とこれからの地域のしくみや若者や女性などが関われる地域の仕組みと人材育成を両輪で検討していくととても良いと思う。

(委員長)

担い手の育成については、高齢者や子育て世代、企業、教育機関が持つそれぞれの強みを生かした取り組みがこれからは重要になってくると思う。

(委 員)

地域と若者の関わりについては、非常に難しいと考えている。私の研究室の学生は地域に関わりたいと考えている学生が多い。ただ、地域に出ると学生が発言した内容を地域の方に聞き入れてもらえない場面に遭うこともある。そこには価値観の違いがあると思っており、最終的には、地域と学生が一緒に取り組めない状況になってしまうことが多い。鳥取に就職したいと思っている学生も、地域の皆さんとの関わりが大変だったことから意欲をなくしてしまうこともある。学生の存在を意識して接してくださらない方には、普段の意識が学生との会話にそのまま出てしまうこともある。

研究に取り組む意欲を持って地域に入る学生はとても熱心に地域の方との受け答えをしており、慣れない敬語を使いながら昭和のしくみにも学生は合わせようと頑張って乗り越えようとしているが、大きな壁を感じている。このため、最終的には、大学生との関わりに慣れている地区や、若者が中心となっている市内の団体が選ばれている。実際には、地区やまちづくり団体に学生が関わるには難しい部分がある。

(委 員)

私の所属団体では、農村・農業ボランティアをベースにした活動に長く取り組んでいる。学生が最初に地域で取り組むのは、イノシシ柵の設置や農業用水路の土砂撤去などの単純作業である。作業を通して学生は、地域の皆さんから「何か助けてくれた人」と認識していただけるので、その後の地域の皆さんと学生とのやり取りが比較的しやすい状況になっており、互いの関係をつくるためのしくみづくりは必要だと思つ

ている。

また、事前にヒアリングをしてから学生を受け入れてもらう地域もあり、そこで学生に単純な労働力として地域に来てほしいというオファーはお断りすると伝えている。学生は授業などで時間が限られている状況で地域に来てくれる所以、このような対応もあらかじめ必要だと思っている。

ただ、自治会規模の地域に入る場合は、学生側にも地域には色々な皆さんがいらっしゃることを事前に説明しており、地域の中心となる皆さんからも同じような説明をしていただいている。また、鳥取の方言についても、県外出身の学生から悪気はないが言い回しだけがきつく聞こえることが時々あると言われたこともあり、このようなことも含めてあらかじめしっかりと説明することがコーディネーターの仕事だと思っている。

学生に地域へ関わってもらう場合は世代ギャップと地域ギャップの両方が出てくると思っている。鳥取に4年間しかいない学生には、半年間関わってうまくいかなければ、その地域に継続して関わることは無理だと思われてしまう。その地域は学生に選ばれなくなり、受け入れてもらいやすい地域に学生が集まっていく。これは、移住者も同じで地域活動の根本になる部分であり、地域と若者の間にどのように入り込むかが、令和型の新しい地域の仕組みづくりだと思う。

昔は、親世代のつながりを通して若者世代も地域に関わる状況があり、青年団や獅子舞の会などのいくつかの階層が地域内にあった。そのため、異なる世代間で問題が生じたとしても、自らの世代が主役になれる場所があるという構造だった。今はそのような構造がなく、世代間で問題が生じてしまうと若者の逃げ場がなく、地域とのつながりが切れてしまう。地域の新しい仕組みを再整理した方がより若者が地域に入りやすいのではないだろうか。

地域での若者の受け入れ事例を見ると、若者の地域に対する伝え方に課題を感じる場合もあった。たとえ正論であったとしても思ったことを直接的に伝えててしまうと地域の皆さん的心を碎いてしまうことがあると伝えておかなければ一触即発になってしまう。互いに尊重し合う関係のはずが、地域の皆さんのが頑張ったことを発言一つで無碍にしてしまうこともあるので難しい状況になっていると思う。

(委員長)

私の地区では、防災に関わるイベントへの協力などのまちづくり活動に関わる地元企業もある。企業がまちづくり活動に関わるといった視点で何か意見はないだろうか。

(委 員)

あまり企業と地域との関わりについては思い浮かばないが、世代間についての課題は企業においても同様にある。会長職の皆さんと現職の若い経営者がうまく動けてい

ない実態がある。若い経営者の皆さんがあれければ、横の広がりなどが広がっていくのではないかと色々な企業を見ていて思っている。

(委員長)

フォーラムのメッセージについては、かなり広がりのある議論となっている。

(委員)

メッセージは、若い人に呼びかけるようなものが良いのではないかと思っている。前回の参加者を見ると 60 代や 70 代の方が約 7 割を占めているので、若者が参加しやすいように会社が休みになる土曜日や日曜日に開催するといったことはお願いしたい。

(委員長)

「みんなが関わりやすいしくみづくり」のような話になってきているだろうか。

(委員)

フォーラム当日の日程は 1 日中かかるものか。

(事務局)

当日準備も含めると 1 日となるが、フォーラム自体は午後の開催を想定している。

本日の次第がまだ残っているが、これまでのグループ討議と全体議論で非常に多くの意見を出していただけたと思っている。例えば、昔からの仕組みや体制を見直して新しい変化を生み出していく動きが必要になっているという意見があった。その具体的な内容として、地域における人と人との関係や団体同士の関係に関する仕組みや、地区公民館に関する体制についても挙げられていた。

時間の都合でターゲットについての討議は時間を確保できないが、ここまで議論の中にターゲットに関する意見も含まれていたと思っている。

本日出された意見をこの場でまとめるのは難しいため、本日の意見を事務局で預かり、次回の委員会でたたき台をお示しできるようにしたいと思うがいかがだろうか。

(委員長)

1 時間でテーマを決めるのであれば、もう少し範囲を狭めていかなければ難しいと思う。そのように進めてもよろしいか。

(出席委員)

了承。

(委員長)

残った時間でご意見や事務局への要望等があればお願いしたい。

(委員)

8月に開催する場合、大学生に活動実践発表や来場者とするのであれば、試験期間や帰省する期間があるため、開催時期によっては大学生が集まらないこともあるため考えた方が良いと思う。

(委員長)

市民自治推進委員会の委員に加えて関係団体の方にも関わっていただき、実行委員会を組織したことが過去にはあったので、テーマによっては関係団体の皆さんと一緒に進めていく部分があつても良いのではないかと思う。

(事務局)

まずはフォーラムへ来てもらうことが一番重要だと思っている。大学生をターゲットにするのであれば8月後半ではなくお盆前が良いかもしれない。ただ、8月初旬は試験期間と重複するので試験期間とお盆休みの間に開催するなどの検討をする必要がある。早めに情報を展開してフォーラムを知ってもらい、フォーラム後に帰省する判断を学生の皆さんにもしていただけるような余地を残しつつ、色々な方が来てくれるよう進め方を決めていければと思っている。

(委員長)

ターゲットによって異なるが、8月初旬は納涼祭や小学生を対象にしたサマースクールなどの色々な行事が予定されるため、重複しないようにする必要があると思う。特に保護者を巻き込んだ子ども関連のイベントが多く開催されるので、情報を集めながら決定したい。実施するからには、来場者の皆さんに来てよかったですと思って帰ってもらえる中身のあるフォーラムにしたい。その他、これだけは言っておかなければならないことはないか。

(出席委員)

特になし。

(委員長)

今日は、委員同士がより近い位置で話し合えるように事務局において検討され、このような形態で進行した。多くの意見を出していただけたので成功だったのではないかと思っている。

(事務局)

次回は、来年の2月頃の開催を考えている。変更があれば連絡を取らせていただきたいのでよろしくお願いしたい。